



# 新聞知報便報

錦

昇

堂

版

芳

年

通

新聞の紙世よ小裨益ひき内外の事理相通と  
 遠近の人情相達と開化進歩ふ  
 効ある大擲つ幼兒ごも善く知得て教示に  
 就つむるの臺本たいほんたをとも唯人情事理にんじょうじりと心こころ  
 感かんず可かく思おもひ考かんふ可べく目めに觸ふき手に  
 取とる能あたるの憾あはれ描えきて以もつて之を諭さとすの  
 捷徑せつていありに如ごとく一魁芳年いっけいほうねん子こ筆妙自由の画権えけんをとひひ月逼圖活の圖象えいさうとりて  
 童蒙婦女どうもうふにょと觀かんぐらめつ誘導ゆうどうの一助いっしよをとめと梓えんも主しゅの家号けごうの笑顔えがなふ愛あて乾庵けんあん電測でんそくの  
 唾餘たひよと需もちめ松林しょうりん三遊さんゆうの換舌かんぜつをあげて洩あさず郵便ゆうびんの名なれ神速しんそくとりて頼たのむ朝あさ報ほう  
 夕ゆふ小知せうち新聞しんぶん數号すうごうの畫様えがたをあつき奇談異說きだんいせつ勸懲くんていをあらわいし日ひに新あらわたし江湖かうかう機関きかん  
 無盡演劇むじんえんげきの運轉うんてん自在じざい替かへりの出板しゅっぱんを御待ごまちて愛顧あいこの余慶よせい御購求ごこうきうと祈いのる板元いっぴんと

二洲橋畔三層樓の一隅は屈す

荅華帝述



社中  
年表

